

ザンビア：ジャスティナさん（16歳¹）、タワナさん（15歳²） 地域のリーダーとして環境問題に取り組む

ザンビアは、アフリカ南部に位置する国で、面積は 75 万 km²（日本の約 2 倍）、2,001 万人が暮らしています。8 ヶ国と国境を接する内陸国ではありますが、1963 年の独立以降、内戦やテロは起きておらず、治安も比較的安定しています。野生動物の宝庫でもあり、ライオン、キリン、ヒョウ、チーター、ゾウ、カバ、インパラ、シマウマ、バッファローなど約 60 種類の動物が生息していることでも有名です³。

ジャスティナさんの取り組み

ジャスティナさんは、ザンビアのルサカで家族と暮らす環境活動家です。



ジャスティナさん（ザンビア）

ここ数年、彼女の住む地域は夏の間中、猛暑に見舞われています。あまりの暑さに食べ物が腐（くさ）り、冷蔵庫を買う余裕もないため、多くの地域住民が病気になりました。さらに、学校では生徒たちが猛暑のために熱中症になっています。ジャスティナさんも熱中症になり、健康観察のために 3 日間学校を休むこととなりました。

ここ数年、雨が降ると洪水になり、子どもたちは汚れた水の中を通らなければ学校に行くことができなくなります。子どもたちは、汚れた水で病気になるか、学校を休むかの決断を迫られています。

ジャスティナさんは、地域社会が団結することは気候変動とのたたかいにとって必要だと信じています。その

¹ 2023 年時点

² 同上

³ 外務省、ザンビア共和国

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/zambia/data.html#section1>

ため、環境意識を高めるリーダーとして、地域の人たちを集めて気候変動について話をしています。ジャスティナさんは、気候変動が世界中の子どもたちの未来をさまたげることが心配しており、地域の人たちが木を植えたり、公共交通機関を利用したりするようになることを期待しています。

タワナさんの取り組み

タワナさんはザンビアのルサカに住む少女です。両親が別の場所で働いているため、祖母と暮らしています。



タワナさん（ザンビア）

タワナさんは演技をするのが大好きで、その演技を通して気候変動問題がザンビアの子どもたちに与える影響についてのメッセージを発信しています。セーブ・ザ・チルドレン ザンビア事務所は、より多くの人に気候変動や子どもたちが参加できる活動について知ってもらうため、タワナさんや他の子どもたちが、地域開発大臣や国会議員など、政策の責任者と会ったり、話したりすることを支援しています。

タワナさんは、気温が快適で、みんなが過ごしやすい夏が大好きです。しかし、彼女は、ザンビアの気温が上昇したり、極端に寒くなったりすることが当たり前になっていることを心配しています。気温の上昇はひどく、授業中の集中力にも影響を及ぼしています。タワナさんは、ザンビアで起きている気候変動問題が貧困を引き起こし、子どもたちの権利をさまたげていると言います。

タワナさんは、自分には急激な気候変動をふせぐ責任があると信じています。そこで、彼女はきょうだいと一緒にな小さな店を開き、苗木を売って、木を家に植えるよう人々にアドバイスしています。子どもたちが「なぜ木を植えないといけないの」と尋ねると、彼女は「将来のためよ」と答えます。